

# まほら

2023. 10 No. 06

新しい生徒会メンバーになりました！



部長の<sup>ほんだ こうた</sup>本田 康太です！

部長として、責任感を持って全力でまほら館の魅力を生徒全員に広めていく活動をしていきたいと思っています。

副部長の<sup>よしどめ なるみ</sup>吉留 成美です！部長を支えつつ、笑顔があふれるようなまほら館にしたいです。あと、イベントも盛り上げていきたいと思っています。



補佐の<sup>せとやま さわか</sup>瀬戸山 紗和香です。まだ分からないことだらけですが、補佐として2人をしっかりサポートしていきたいと思います。



10月といえばハロウィンですね。まほら館もハロウィン仕様になっています。

今月の展示は「食欲の秋」ならぬ

**「飯テロの秋」**

になっています。

次回の出張まほら館

11月14日（火）

11月28日（火）



# 錦江湾高校推薦図書 2023



『錦江湾高校推薦図書』とは、先生方が選ぶ高校生のみなさんに読んでほしい本です。今年度も、『錦江湾高校推薦図書』を先生方の紹介文とともにまほら館にて展示しています。先生方が紹介された様々なジャンルの本をぜひこの機会に手に取ってみませんか？



保健体育科 勝田先生

## 岳物語

著者 椎名 誠  
出版社 集英社



「おとう」とその息子である「岳」君との楽しく愉快的なエッセイ。「おとう」は椎名誠さんご本人で実の息子さんとのやり取りを題材にしている。親の視点でみる子どもの成長記録は、微笑ましくもあり、ホッとする本です。

続編もあります。



英語科 細瀧先生

## 海に見える理髪店

著者 荻原 浩  
出版社 集英社



短編集で読みやすいですよ。

6つの物語が、いずれも心に染み入るいい話です。特に表題の小説は読み終えた後、しばらく涙が止まりませんでした。



音楽科 小倉先生

## 52 ヘルツのクジラたち

著者 町田 そのこ  
出版社 中央公論新社



本屋大賞 2021 受賞作。

虐待を受け辛い経験を抱え、1人で田舎に住み始めた女性と少年の出会い。人は1人では生きていけない。52ヘルツのクジラはどんなに叫んでも聴こえない。周り人の声を大切にしよう。



理科 久保先生

## 関東大震災

著者 吉村 昭  
出版社 文藝春秋



今年に関東大震災から100年目である。この小説は文献や体験者の取材をもとに未曾有の災害を克明に描き出している。また、2人の地震学者、大森房吉と今村明恒の生き方を通して、地震予知・防災の課題も考えさせられる。地震が多発する今、読んでほしい。

なお、今村明恒は明治3（1870）年鹿児島生まれである。

# 錦江湾高校推薦図書 2023



理科 山下先生

## ものがわかるということ

著者 養老 孟司  
出版社 祥伝社



「覚える」のではなく「わかる」ために学びなさいと言われます。でも「わかる」とはどのようなこと？

人工知能が急速に発達している現在、人間の脳との違いは？「バカの壁」がベストセラーになった解剖学の養老孟司さんの本ですが、この本にも答えはありません。でも考えるためのヒントが書かれています。



地歴公民科 前原先生

## 運転者

### 未来を変える過去からの使者

著者 喜多川 泰  
出版社 Discover



#何もかもうまくいかない主人公が、とあるきっかけでまさに人生が変わっていく物語

#運はいい・悪いで表現するものではない。

使う・貯めるで表現するもの

#報われない努力なんてない！

#人生で大切なことを学びなおす、本当は教えたくない一冊。



数学科 松下先生

## 大地の子

著者 山崎 豊子  
出版社 文藝春秋



太平洋戦争で敗戦のため、満州残留孤児となった主人公・陸一心が、中国人養父母への愛情と日本の実父との愛憎に揺れながらも、文化大革命の荒波を超え、日中の共同事業を完成させるまでの物語です。

NHK でドラマ化されているので、そちらもおすすめです。



地歴公民科 石井先生

## 蛍雪時代

出版社 旺文社

受験雑誌ですが、勉強法だけでなく、健康面・精神面を整えるためのアドバイスなど、今の高校生に合う読みやすい本だと思います。

受験勉強との向き合い方も教えてくれます。



英語科 濱田先生

1日1話、読めば心が熱くなる365人の

### 生き方の教科書

著者 藤尾 秀昭

出版社 致知出版社



稲盛和夫氏、山中伸弥氏、黒柳徹子氏といった各界の一流プロによる、心が熱くなるような人生経験が一人につき1ページずつ書かれていて、長くもなく、短くもない素晴らしいまとめ具合で非常に読みやすい。著名人たちの人生訓は、それもいい話で、短時間で、たくさんの講演会に参加できたように感じられる一冊です。



数学科 阿久根先生

### 限りある時間の使い方

著者 オリバー・バークマン

出版社 かんき出版



人生はたった4000週間、この期間を、この限られた時間をどう過ごすのか!?

考えさせられる本になってます。時間の使い方に対する見方が変わり、考え方にも影響を与えます。ぜひ、読んでみてください。



数学科 徳満先生

### 新明解 類語辞典

編 中村 明

出版社 三省堂



私は新明解シリーズが好きです。国語事典の人間味あふれる意味はグッときます。文字数の限られた文章を考えるとときに有効なのがおすすめする類語辞典です。まだ数回しか使っていないのですが、手元にあると心強い一冊だと思います。

一冊どうですか…?



国語科 加世田先生

### 無名

著者 沢木 耕太郎

出版社 幻冬舎文庫



病床の父を見守る息子が、無数の記憶を掘り起こし、「無名」の人生の軌跡を辿る話です。生きて死ぬことを静かに描いた作品。読み終わった後、家族とは何か、人生とは何か深く考えさせられます。どう生きるか、高校生みなさんに考えてほしいことです。

10月27日は読書の日。たくさん本を借りて読んでみませんか。

